

News Letter of Sapporo Nature Research & Interpretation Office

調査館通信

31

2006. 07-12.
2007.01 発行
<http://www.cho.co.jp/>

制作・発行＝さっぽろ自然調査館

◆〒004-0051 札幌市厚別区厚別中央1条7丁目1-45 山岸ビル3階

◆電話＝ 011 - (892) - 5306 ファクス＝ 011 - (892) - 5318

◆電子メール＝ chosakan@cho.co.jp

◆郵便局払込口座＝ 02740-2-58150 [(株)さっぽろ自然調査館]



新年年賀状号



●封入標本採集記 ～水生昆虫編～ → 1頁

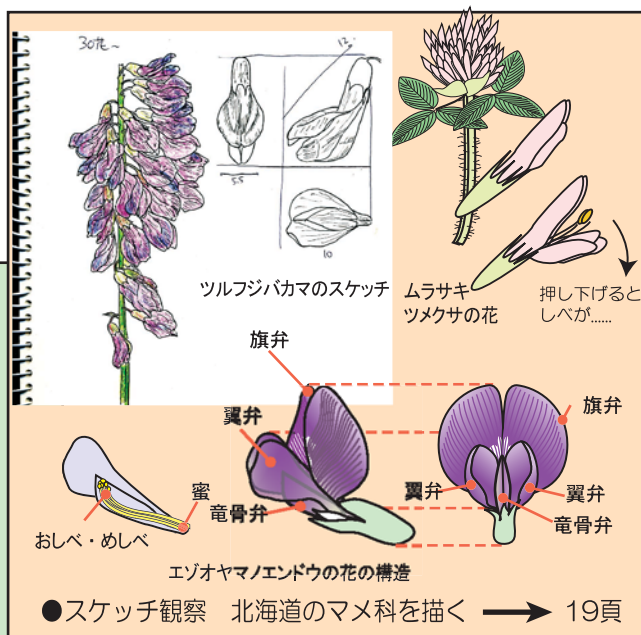


ヤマゲタの実に来たクロヒカゲ 吸汗するエゾオオマルハナバチ 指の上のエゾコマルハナバチ

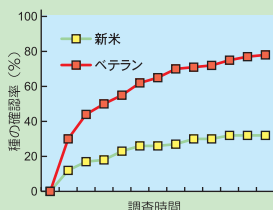


エゾトラマルハナバチを襲うキロスズメバチ

●マルハナバチの行動観察雑記 → 24頁



●スケッチ観察 北海道のマメ科を描く → 19頁



●フロア調査～精度を高めるために～ → 6頁・裏表紙

●今月までの活動・ニュース → 28頁・裏表紙

今月までの活動・ニュース 7-12 月

前号の続きで 2006 年の後半の活動の紹介です。

7 月

●北海道自然史研究会〔29-30 日〕

道内の自然史系学芸員などの集まりである本会の研究発表会が、遠軽町丸瀬布で行なわ



れた。今回は丸瀬布昆虫生態館の喜田和孝さんが幹事となり、後援・遠軽町教委という形で開催。初日の午後、五十嵐博さんによる基調講演「網走地方などに分布の偏る植物たち」、続いて研究発表が行なわれた。北網圏北見文化センターの柳谷卓彦さんによるセイヨウオオマルハナバチの発表をきっかけにして、全般にセイヨウ関係を中心に議論が進んでいた。北見地方では、セイヨウが都市・農村部だけでなく海岸部にも相当広がっているらしい。夜は、懇親会・総会が開かれた。フィールドで忙しい時期だけに、参加者が少なくてちょっと残念。二日目は、喜田さんの案内で武華山山麓のナキウサギ生息地を歩いた。次回は登別ヒグマ博物館に内定。(に)

キリギシ山の調査は 6 年目になるが、夏に行くのは初めて。どんな花が見られるか楽しみだったが、春と比べるとかなり地味な印象だった。今回はオオヒラウスユキソウなどの調査を行なった。オオヒラウスユキソウはこの時点ですでに種子の散布期に入っており、エゾウスユキソウに比べて著しくフェノロジーが早い。

途中、道警の巡視ヘリが来て超低空から監視を受けた。なるほど迫力はある。事前に聞いていた合図を送ったら、しばらくして去っていった。



この日は大変な蒸し暑さで山登りには辛かったが、少雨のせいで岩壁の植物もかなり参っている様子だった。(に)

●井の頭公園・ミズグモ採集〔14 日〕

なぜか、突然井の頭自然文化園(動物園)の人にミズグモの採集を依頼される。本州では生息地が少なくなっているとのことで、飼育展示で紹介するために生きたものを送って欲しいとのこと。確かに展示づくりのために、採集もいろいろ手がけ始めて入るが(1 頁の記事参照)、つかまえたことないものをとれるのか。つかまえたことがあるという開拓記念館の堀さんや糠平のまゆみさんに聞いて、とりあえず苫小牧周辺に行ってみるが、からぶり(自分の欲しかった水草や水生昆

8 月

●峠(キリギシ)山希少植物調査〔1 日〕

今回はいつもの北海学園大の佐藤謙教授ではなく、専修短大の石川幸男教授とともにキリギシ山を訪れる。石川先生とは学生時代に何度も知床方面や学会等でお会いしていたが、こちらが行かなくなったため本当にお久しぶりだった。また、



虫は集められたが...)。結局他にあたっていたかどうか、お願いした(ここまでは7月)。

夏休みに東京へ行った折に、せっかくなのでそのミズグモ展示を見に行くことにした。井の頭公園は、親戚がそばにいることもあり、子どものときによく行ったので懐かしい。ミズグモ展示は分園の水生生物館にあった。ここは、さまざまな在来水生生物が飼育されていて、なかなか面白かった。展示水槽の中にカイツブリまでいたのにはびっくり(ちゃんと魚を捕ろうとしていた)。

ミズグモは5匹を展示するとともに、生態をパネルで紹介。実は、公園の三鷹市側にはジブリ美術館があり、そこでミズグモのショートアニメをやっているため、連動した企画として展示をしたのだそう。面白い連携だと思うが、向こうのお客さんはまだあまり来ていないとかでもったいない。アニメは宮崎駿が子どものときにインパクトがあったミズグモの生態をもとにしたそうで、主人公のミズグモはかなりマンガチックだが、ゲンゴロウの幼虫など他の登場生物はかなりリアル志向だった。

ここは都営の4つの動物園の一つで、指定管理者が導入されたりして、やはり大変だとか。東京都は大将が大将ですな(笑)。展示としては、動物園系ということで、基本は生体展示なので、管理・見せ方とも労力のかかるものと感じた。(お)

● 環境教育学会[19-21 日]

日本環境教育学会の全国大会がはじめて北海道で開催され、研究発表は酪農大

で行なわれた。この学会は初期の頃から参加しているのだが、発表は学生時代に2回やったのみ。今回はせっかくなので久々にポスター発表も行なった。とりたててちゃんとした学問体系がバックにあるわけではなく、今ひとつ低空飛行の学会だったが、一般の関心は高い分野で、事例の集積だけでも進めばいいのではないかと思う。

21日はエクスカーションが旭山動物園だったので、ミーハー気分で行く。バックヤード見学や副園長の解説などで楽しかったが、ものすごい人の多さとにかく驚いた。確かに展示方法の工夫をいろいろ



やっているのだが、あれだけ人が多いと、機能しなくなってきそうで今後が心配。(お)

9 月

● 厚別区環境広場[2 日]

札幌市厚別区のローカルなパネル展「環境・快適くらし展 in 厚別」が新札幌のサンピアザで開催される(<http://www.epohok.jp/modules/smartsection/item.php?itemid=34>)。地元環境関連企業？ということでパネル出展とトークに参加し、この周

辺の自然の成り立ちと緑地の現状について紹介する。ショッピング



グ街でどれほど人が集まるのか疑問だったが、それなりに来ていた。（お）

●えりも観察会〔3 日〕

えりも花ファンクラブ主催の自然観察会に講師役として出掛ける。前回同じようにして訪問したのは 2000-2001 年だから、じつに 5 年ぶり。みなさんお変わりなくて、すぐにうち解ける。最初は庶野桜公園でオオハンゴンソウの抜き取り作業。もともと自然林だったところに桜を植栽したので、林床にシラネアオイ・カタクリがたくさんあったそうだが、近年激減しているとか。途中激しいスコールに見舞われたが、1 ヶ月ぶりの雨とのこと。すぐに止んだので、秋の野の花がきれいに咲く場所をあちこち案内してもらった。今回はだれが講師なのか…。雨上がりでどの花もたいへん美しかった。

なお、このときはちょうど天皇のご訪問の準備で町中警察だらけで、ものものしい警



備。駒井さんには何から何までお世話になりました。（に）

●達古武・モニタリング調査〔11-15 日〕

毎年恒例になりつつある釧路・達古武の調査は、今年は 9 月が事実上仕事始め。森林再生の試験の追跡調査と、周辺環境情報の集積を行なう。今年もミスナうなど実りが悪そうで、やや不安。（お）

10 月

●藻岩山円山調査〔2-3 日〕

夏のザリガニ調査に続いて、秋は魚の調査。藻岩山・円山から流れ出す小河川にトラップを仕掛けて調べた。そもそも魚が棲めるような流量のある川は限られているうえ、砂防ダムがあったり、下流側は市街地が迫り暗渠が障害になって行

き来ができないため、各河川は孤立した状態である。天然記念物といっても魚にとっては棲みやすくはなさそう。ところで今回の調査中、藻岩山中の河川でモクズガニを発見した。モクズガニは海で産卵し、終わるとまた川に戻る。海から来るには市街地の土管を通らないと来られない場所なので、天然物とは思えないのだが、なぜこんなところにいたのかは不明。

（の）



●アポイ気象観測機器設置〔4-5、26-27 日〕

2004 年からアポイ岳の気象観測をサポートしている。昨冬は風力計



のデータがなぜか取れていなかった。その再挑戦で、データロガーを設置し直す。機械の測定条件の設定に若干手間取ったが、なんとか無事完了できた。次こそはデータが取れていることを祈る。ダケカンバの黄葉、カエデ類やツツジ類の紅葉が美しかった。なお、平行して防水温度計の設置を行なったが、そちらは 1 日で完了せず、改めて月末に行くはめに。月末は、吉田山に登る。防水温度計の設置はあつという間だったが、前回風力計の風車の動きが悪かったので、そちらに周り機械油を差しておいた。樹木の紅葉は終わりに近かったが、タカネノガリヤスの草紅葉がとても印象的で、来た甲斐があったと感じた。（に）

●滝川観察会〔7 日〕

春に続いて、美術自然史館主催による秋の自然観察会「木の実をあつめよう！」



の講師役として出掛ける。春は身近な野生植物の花の観察と標本採集を

体験してもらったが、秋はその応用で、果実の観察と標本採集を体験してもらう。子どもたちは、すでに学校の授業でいろいろな果実のつくりや種子散布の仕組みを学習している。小雨が降っていたため、傘を差しての観察会になったが、ナナカマド・ドイツトウヒ・オニグルミなどいろいろな木の実が集まった。この後は室内に戻っての作業。お菓子の空箱を1人ずつ配り、採ってきた果実を木工用ボンドとセロテープで貼り付けてもらう。標本一つずつに特製の標本ラベルを貼って標本箱が完成。標本箱はお土産として持ち帰ってもらった。この方法は「木の葉」「昆虫」などまだまだ応用が利くと思う。観察会終了後には、今年度から始まった「たきかわ野の花研究事業」の第2回打ち合わせ会議。地元小学校の理科専科の先生らにも参加してもらい、自然学習教材づくりの方向性を検討した。（に）

●フラワースン初会合〔12日〕

北海道新聞と野生生物基金が主催するフラワースンは、5年おきに行なう市民参加の全道一斉植物調査だが、来年6月に第3回が実施されることになった。この日は最初の実行委員の集まりがあり、スケジュール・方針を確認した。委員長は前回までと同様辻井達一さん、日程は6月16-17日と決定。調査館では、前回2002年と同様に事務方として調査の実施・取りまとめ全般を担当することになるので、皆様よろしく。（お）

●達古武調査体験会〔21日〕

環境省主催の釧路達古武での調査体験会も今年で3年目。カラマツ林の森林再



生と並行して、自然再生の学習プログラムの開発と実施の一環として行なっている。諸事情で今年も秋からの開始で、毎年時期が同じでネタに困りつつ、タイトルは『タネ集め・苗つくりとタネを運ぶ動物をしらべる』に。ただし、10月下旬とネズミを捕獲すると死んでしまう危険を考慮して、エサの持ち取り実験を使った間接的な観察から、ネズミの生態を理解してもらう方法で行なった。雨や低温になればすぐにネズミが行動しなくなり、失敗に終わる可能性もあるため、本番の数日前から万が一に備えて予備実験を繰り返した。



実験テーマは「どんな大きさの穴まで入ってこられるか」「ネズミはどんなどんぐりを好むか」など7種類。前日に本番用のエサをセットして、当日は参加者に結果を予想してもらいながら、持ち去り状況を観察した。当日は30人以上の参加があり、参加者は実験の数の多さに驚きつつ、実験結果からわかるネズミの習性に納得した様子だった。もう一つの目玉は、デジカメによる自動撮影。エサを持ち去られた跡だけでは実感がないので、自動撮影を使ってネズミがエサをとりにくる様子を撮影した。デジカメなので、

その場で映像を見せることができ、参加者もネズミの姿に釘づけになっていた。自動撮影装置を使うと、エサを持ち去る順番も分かるので、より詳しく行動パターンを知ることにもできる。今回のような実験ネタは、仕込みから参加してもらうのが楽しいし理解も深まるので、次の機会は2日ばかりでやってみたい。

この他に、種子のカウントや苗づくり体験を行なった。今年ミズナなど多くの種が不作だった。自主苗の掘取り作業とタネ撒きは、広葉樹林の再生の一環で、雪印種苗の鈴木さんと荒井さんによる指導で、作業道わきにある小さな苗を掘取り、午後にはそれを苗畑に仮植えた。参加者には拾ったどんぐりを埋めたポットを持ち帰ってもらい、来年まで育ててもらう。

この日の昼食はシェフ修のタイ風カレーと、修自家製の紅玉りんごが振舞われ、みなおいしく食べていた。（の）

11 月

●知床ライブラリー植物Ⅱの原稿執筆〔～7日〕

知床博物館の20周年を記念する出版事業で、道新出版から全10巻が刊行される予定である（鳥・哺乳類・魚・虫が既刊）。百科事典タイプというよりは、それぞれの著者がテーマを決めて書いている感じ。各巻力作ぞろい、こんなシリーズができるというのも、知床ならではだろう。

植物はⅠとⅡがあって、Ⅰはすでに刊行済みである。植物Ⅱでは、「花と昆虫」「希少植物」の話題を主に丹羽が、「ツツジ」「セリ」の図譜を渡辺修がそれぞれ担当している。一昨年の年末ごろから本格的に取り掛かり始め、年明け～年度末に暫定の原稿を提出していたが、夏の間は休止状態だった。9月末に再始動してからは賞味1ヶ月弱で、最後は突貫工事。こちらもいつも対応がフンテンボ遅れ気味で、担当の内田さん（知床博物館）にはいろいろご迷惑をかけてしまった。11月末には出版されると聞いているので、そろそ

ろ店頭に並ぶのだろうか。（に）

知床ライブラリーでは趣味のページ？のようなイラスト図鑑を描かせてもらってしまった。まあ賑わいも必要ということで。以前発表したセリ科とツツジ科の図譜をカラー化して大幅にリライトしたので、マニアの方はお楽しみに。（お）

●野幌交流館説明会〔2日〕

北海道が直営していた野幌森林公園大沢口の自然ふれあい交流館が来年度から指定管理者による運営になることに。最初に展示を手がけた場所で、今も近くにいることでちょくちょくお世話にもなっていただけに、管理者の応募説明会には参加した。この日は交流館の行く末を心配する地元の関係者も来ていて、結構な賑わいだった。

管理者の可能性については、いろいろと検討してみたが、最終的には予算的にもきつくて断念することに。展示スペースとフィールドを持つことは大きなメリットだったのだが、現状から半分以下になっては厳しい。もちろん道としてはコスト削減が目的で民間委託するのだろうが、民間だからという理由で、いきなり安くなるはずもなく、サービス低下が懸念される。結局特殊法人系（道が補助金を出している）に委託するケースが多いのもおかしい。いろいろ心配だが、最終的に6団体が応募して審査に入っているようだ。（お）

●アポイ岳再生委員会による再生作業〔12日〕

貴重な高山植生の衰退が進むとされるアポイ岳で、自然再生を目的とした初めての現地作業が行なわれ、この作業に私も参加した。主体となった再生委員会は、アポイ岳に関わる研究者と地元のアポイファンクラブ、自治体



関係者などから構成される。この日は副会長の増沢武弘氏（静岡大教授）を先頭に、総勢 20 名以上が参加した。場所は 5 合目避難小屋のすぐ下で、特別天然記念物の指定地からはわずかに外れる。王子製紙の所有地で、緩やかな尾根の上に、針葉樹や広葉樹が散在する草原状の植生が広がる。作業はまず、50m × 4m の枠を取り、この中の植生や岩石を含む表土を撤去した。私はこれに先駆けて、缶木調査とつらつら調査を事前調査として実施した。

今後は、2m おきに「放置区」、周辺から高山植物のタネを集めて播く「播種区」を設定し、アポイファンクラブが中心となって管理しながら再生状況を観察していくという。この日は全国的に海や山の遭難が相次ぐ大荒れの日だったが、日高地方は例外的にまずまずの天候に恵まれた。（に）

●林学会支部会〔13 日〕

北大中村研の院生である旭しのぶさんが、達古武で行なっている修論研究を発表することがきっかけで、林学会支部会に修と展が行く。思っていたよりも発表数が多く、傍聴者も多かった。発表者も学生さんが多い印象。個人的に目を引いたのは、パシフィックコンサルタントの池田幸資さんの水生昆虫を使った河川環境の評価についてのポスター発表。河川水辺の国勢調査のデータを使って水生昆虫相から河川の特徴を抽出しようと解析していた。河川環境を評価して具体的に対策していくには、こうした評価手法の試みがどんどん行なわれていくことが不可欠であることを再認識する。（の）

●フォレストーズ総会〔18 日〕

親子を対象にした様々な環境教育プログラムを行なっているフォレストーズクラブの総会が JR 琴似駅前のレンガの館で行なわれ、渡辺展が参加する。レンガ館は歴史的な建造物で現在は保存指定されていて、三角山 FM が使用している。そのフリースペースを借りて会場にした。総

会としては、パネリストを呼んで話題提供してもらい、その中からフォレストーズの来年の活動について考えていこうというもので少し変わった趣向である。同時に交流のある団体の参加も募り、その場を活動のネタ収集の場として利用してもらおうという狙いもあったとのこと。

宇野代表が司会を務め、話題提供者は、フォレストーズ松田好子さん、石狩市の内藤華子さん、酪農大の金子正美さん、室蘭工大の亀田正人さん、ジャスコの吉田孝さん、渡辺展の 6 人。渡辺展は市民調査についての倶知安での事例を紹介する。持ち時間が少なめだったこともあり、各人時間をオーバーぎみではあったが、こうした提案のなかでフォレストーズが何を活動するかは来年わかることになる（たぶん）。

ちなみに酪農大の金子さんは、道が行なっている『北海道地域環境学習講座 eco-アカデミア』を使って派遣されたとのこと。これは地域の市民団体が環境学習講座を開くときなどに道が旅費等の費用をもってくれて、負担なしで講師を派遣してくれる制度。登録されている方ではないと派遣しにくいようだが、テーマに合った人がいれば、市民団体にとってはありがたい話だ。まだ認知度が低いうしく、応募余地はあるみたいなので、興味ある団体は活用を考えてみては。詳しくはこちら→ <http://www.pref.hokkaido.lg.jp/ks/kss/academia/>（の）

●フラワーソナドバイザー会議〔28 日〕

フラワーソナには実行委員のほかに、道内を 17 に区分した地区を担当し、参加者にアドバイスする役であるアドバイザーを 20 名ほどお願いしている。全道にいうことで、なかなか集まる機会はないのだけど、この日は最初の集まりとして各地から来ていただいた。メンバーは RDB の調査員とかなり重なっているのだけど、久しぶりで 2002 年の前回以来という人も多かった。

会議では前回の方式について確認し、

今回どのように実施するかについて話し合った。前は記者出身の基金事務局長の谷さんの強引な仕切りにふりまわされる場面が多かったような気がするが(笑)、今回はもっとスムーズに進められそう。前回のノウハウもあるのだが、さすがに5年に一度というのは、忘れたことも多く、記憶をたどらないと... (お)

は、被写体として美しいので調査館の写真ライブラリにぜひ加えたいからである。しかし、なかなか同定ができなくて苦労している(写真は最近撮ったもの)。(に)

12 月

●北海道 GIS データベース研究会セミナー〔1 日〕

今年で7回目となるGISデータベース研究会セミナーが札幌エルプラザで開催された。毎年、GISを使った事例発表とGISソフトを使って作成した図面のコンテストが行なわれるが、今年はそれらに加えて体験セミナーやテクニカルワークショップといったGISソフトの使い方に関する話題も提供していた。普段はわからないことがあってもなかなか聞く機会がないので、こうしたワークショップは専門でないユーザーにとってはありがたい場である。その場には、同業の環境コンサルの方も多数いて、何人かでGISソフト製造元のESRI社の担当者を質問攻めにしていたが、自然環境分野でGISを使う場合、聞きたいことが共通していることに納得する。

また、特集では観測衛星だいち(ALOS)が取り上げられ、これまでより安価で高品質の衛星画像を提供できるということで、衛星画像ももっと身近に使われるようになるかも。(の)

●北海道植物友の会講演会〔2 日〕

年末恒例の講演会&忘年会が「かでる2・7」で開かれた。演者は西原羊一さん(北海道キノコの会副会長)で、「きのこを通して自然を知る」というタイトルで講演いただいた。私も、最近少しずつキノコの写真を撮りためるようにしている。一般にキノコと人間の関係は「食うー食われる」の関係になりがちだが、私の場合

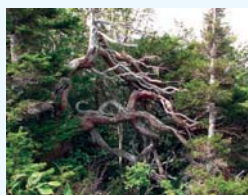




丸瀬布・自然史研究会(7月)



ナキウサギの糞(7月)



岨山・イチイの風衝樹形(8月)



オオヒラウスユキソウ(8月)



井の頭公園・ミズグモ展示(8月)



井の頭公園・アライグマ(8月)



旭山動物園・ゴマフアザラシ(8月)



旭山動物園・シロサイ説明(8月)



厚別環境広場(9月)



えりも・オオハンゴンソウ採り(9月)



えりも・キキョウ(9月)



えりも・チシマセンブリ(9月)



達古武・カラマツ林調査(9月)



達古武・イタヤカエデ実生(9月)



達古武沼湖岸(9月)



トウヌマゼリにアブ(9月)



イヌゴマにマルハナバチ(9月)



藻岩山・モクズガニ(10月)



滝川親子観察会(10月)



滝川・エゾリス(10月)



達古武・調査体験会(10月)



達古武・自動撮影装置(10月)



達古武・アカネズミ(10月)



達古武・苗づくり(10月)



アボイ岳・カワラタケ?(10月)



アボイ岳・タカネノガリヤス(10月)



ヒダカイワザクラ紅葉(10月)



アカエゾマツ豊作(10月)



野幌交流館説明会(11月)



アボイ岳・再生実験(11月)



●フロラ調査
～精度を高めるために～

←植物名分かりますか(答えは18頁)